

## 第4章

副読本  
34～35ページ

## 3. 災害ボランティアとしての活動②

年 組 番 氏名

## 防災知識



## 被災地でのボランティアの心構え

## ボランティアの意味

ボランティア (volunteer) の語源は、英語の will の語源でもあるラテン語の Volo (ウォロ) で、「意思」「志願」という意味の言葉です。だからこそ「自分のできることを自ら進んでやる」のですが、それだけでは「自分のやりたいことをやっているだけ」に陥ってしまいかねません。

ボランティアは単なる「労力提供」や「滅私奉公」ではありませんし、単なる「自己の向上」や「自分探し」の手段でもありません。ボランティアとは「助けを求める人に手を差し伸べないではいけない」という共感と、受け手側の受容によって初めて成立する「協働」なのです。

被災地においてお互いに気持ちよくボランティア活動をするには、次のことに心がける必要があります。

- ① **無理しない** 「できることをできる範囲で」。学校や仕事、体調に影響するボランティアはよくありません。
- ② **約束を守る** 時間や約束を守る。連絡もせずに遅刻したり、休んだりすると迷惑になります。
- ③ **秘密を守る** 活動中に知った個人情報や漏らさない。信頼関係を保つために、重要なこととなります。
- ④ **活動は積極的に、また謙虚に** ボランティアは「してあげる」、「してもらう」関係ではなく、自分がやりたいからやる活動です。現場で自分ができるところを積極的に探ることが大切になります。
- ⑤ **ボランティア保険への加入を忘れずに** 活動中の万が一の事故に備え、保険に加入することが大切になります。
- ⑥ **ニーズをつかむ** 必要とされる働きは、時間経過・場所・状況によって変わっていきます。ボランティアは相手の「受容」あってのこと、相手に何を求められているか、自分がなぜ必要とされているか忘れないようにしましょう。
- ⑦ **現地に行くだけがボランティアではない** 現地でしかできないボランティアも大切ですが、ボランティアセンターの事務や、被災地以外での募金、物資の調達など、被災地から離れていてもできるボランティアがあります。  
(内閣府「防災ボランティアの『お作法』集」、全国社会福祉協議会「災害時のボランティア活動について」などを参考に作成)

3

被災地でボランティア活動をする際に、現地の人に心配や負担をかけないためには、どのようなことに気をつけたらよいか考え、話し合ってみましょう。

---



---



---



---